

# としょぶらり

米子高専図書館情報センター報

ISSN 1344-5634

第 89 号

平成22年8月10日発行  
米子工業高等専門学校  
図書館情報センター

## 目次

イタリア紀行 .....	1
私と読書 校長 .....	2
新任教員のお薦めの本 .....	3
学生図書委員のページ .....	5
挨拶	
図書委員お薦めの本	
ブックハンティング	
新着図書の紹介(ブックハンティング)...	6
学生図書委員一覧 .....	6
21年度学生利用図書ベスト10...	6
21年度図書館統計 .....	7
利用状況	
貸出し冊数・貸出率	
学生利用状況	
読書・エッセイコンクール応募要項 .....	8



ブックハンティングによる新着図書コーナー

## イタリア紀行

一般科目(数学) 梶川 雄二

昨年末私は機会を得て、イタリアを訪れる事が出来ました。日本を出た飛行機はかなり気流の悪い中を切り抜けて、ようやくローマへ着きました。写真の一つはローマの教会にある有名な「真実の口」です。嘘をつく人は、この口に手を入れると切り落とされるか抜けなくなると言われています。映画「ローマの休日」にも出てきます。私も手を入れてみましたが大丈夫でした。今回私が楽しみにしていたのはもう一枚の写真にあるピサの斜塔です。この斜塔の上から鉄の球を落としてガリレオが実験したという話が残っていますが、真偽の程は確かではありません。「イタリア人はいいかげんだ」と言う人もいますが、私は彼らの楽天性がかなり好きです。又行ってみたい国です。



□ 真実の口



□ ピサの斜塔



校長 齊藤 正美

学校の仕事とは別に、米子の地に赴任したことが私にとってとてもよかったと思うことが二つほどあります。ひとつは、大山、弓ヶ浜、美保湾、島根半島などの美しい自然環境に恵まれたこと、そして二つ目が、古代から続く出雲大社、熊野大社などの神社群や妻木晩田（むきばんだ）、荒神谷などの古代遺跡群が身近に存在することです。それが、なぜ私にとってありがたいことなのかは、これからお話しする読書のことと密接な関係があります。

私が若い頃、つまり中学生から大学生の時代にかけて、実は思い出に残るような本はありません。わずかに大学時代に読んだ夏目漱石、芥川龍之介、井上靖、ドストエフスキーらの小説ぐらいがあるだけです。つまり、本校の学生諸君の年頃には、読書に対する興味があまりなく、読書量も少なかったということです。ところが、今では時間があればいつでも何かは読んでいたといった状態で、本のない生活は考えられないようになっていました。

いつごろからそうなったのか、正確には覚えていませんが、大学院を出たあと企業に就職して1、2年経ったころからのように覚えています。

社会に出て実際に仕事に携わり、いろいろな人たちや場面に出会ったりすると、いやでもそれらのことに正面から向き合わなければならなくなります。もちろん楽しいことばかりではなく、面白くないことやつらいことも含まれています。そのようなとき、ふとどうしても知りたいたいと思うことが出てきました。それは、日本とはどのような国なのだろうか、日本人というのはどのような民族なのだろうか、またそれらはどのようにしてつくられてきたのだろうか、ということです。そのような設問がどんな意味をもつのかと思われるかもしれませんが、そのときの私にとってはかなり真剣なものであったように覚えています。それ以来、関連すると思われる本を手当たり次第に読むようになり、その結果として読書量が増えてきたという次第です。実のところ、私がそのときもった疑問を解き明かすために始めた読書の旅は今なお終わっていません。いや多分一生終わらないだろうと思います。考えれば考えるほど、また知れば知るほど、深くて広がりのある問題だということがわかってきたからです。考えてみれば、このような設問は、洋の東西を問わず、人間とは何

か、人間の営みとは何か、という問題につながっていくことは必然的です。そのため、これまで読んできた本、今読んでいる本、これから読むであろう本のジャンルは当然多くなります。歴史（世界史、日本史、古代史）、言語・文化、哲学、宗教、経済、技術、小説、芸能など何でもありということになっています。ただ、何でもありですが、いつでも上に述べたような問題意識をもって、あるいは疑問をもって本を読むくせがついているので、良い本に出会えば、納得があり、感動があり、世界が広がる自分を感じます。若いときに自分で設けた設問が良かったのか悪かったのか、簡単に解けるようなものではなかったがために、どのような分野の本にも興味をもち、親しめるようになったのかも知れません。

さて、冒頭に述べた米子に着任して良かったことの話に戻ります。私を含めて多くの人が、日本という国、日本人という民族が形成されてきた歴史を理解する上で、山陰地方の古代を知ることはいへん重要なことと考えています。「古事記」「日本書紀」では出雲のことは神話として扱われていますが、出雲大社、熊野大社などの存在や妻木晩田遺跡、荒神谷遺跡などの出現は、それが決して単なる神話ではなかったことを示唆しています。そのことに関する本は多数出版されていますが、ここ米子に居ると、短時間でそれらの場所に行って実在の香りを嗅ぐことができます。歴史の舞台となった山、川、海、風土などを直接目にすることができ、読書だけでは得られない何かを感じ取ることができます。また、現地の歴史博物館やみやげもの屋さんでなければ手に入らないような資料や本に出会えることもあります。つまり、実地の踏査は、読書がもっている力を何倍かに拡大し、理解を深めさせる効果があることを感じます。そのようなことができる地に赴任できたことは（少なくとも土・日曜日に退屈せずに済むという意味でも）たいへん楽しく、幸せなことだと考えています。

このように、私が本を読み始めたきっかけは、上で述べたような疑問を若いときにもったことにあります。そして、それを考えること自体が継続的な習慣になったために、いろいろな分野の本に興味をもち、今なお飽きもせず読んでおれることにつながっているものと思います。（雑学を含む）多分野の読書のおかげで視野を広げることができ、趣味としてだけではなく、いろいろなことを考えなければならぬ今の学校の仕事にもたいへん役に立っています。

今年度に新任として本校に赴任された先生がたに、それぞれとおきの図書を推薦して頂きました。先生方がお薦めの本は今後図書館にも常設する予定です。



## 「私の読書」

機械工学科 原 圭介

私は人に薦められるほどたくさんの本を読んでいませんので、まずは私自身の本を読んだきっかけについてお話ししたいと思います。私は幼いころより読書が嫌いで、母親には何でもよいかから本を読みなさいとよく怒られたのを覚えています。しかし、やいのやいの言われて素直に言う事を聞くような性格ではなかったので、私と読書との距離はますます離れていきました。そして結局、中学を卒業するまで、私の中で活字を自らの意思で読む習慣はとうとう訪れませんでした。私が読書を始めたきっかけは、高校の音楽の授業でショパンについての本を読みレポートを書きなさいという課題で渋々読んだことからです。嫌々ながら本を読むにつれて、知らないヨーロッパの土地を想像し、その時代の人々の雰囲気を感じながらショパンという人の生涯に興味を持ち親近感や尊敬の念を抱くようになりました。結局、本嫌いであったはずなのに、一気に本を読み終えてしまいました。今までろくに本を読みきったことのない私にとって、読み終えることができたという達成感と、本から人の人生を学ぶことができるという2つの要素は、私が本を好きになる十分な理由となりました。それから、高校の通学時間が50分程度あったので、電車の中で読書をするようになりました。私の本を選ぶ基準は、村上春樹の本の中で作者が亡くなってからも名著として残っている本はすばらしという一説に影響されたことから過去の作品を選ぶか、また音楽の課題で読んだショパンの影響から偉人の人生を描いたものかを選びました。この基準の中で私が一番面白いと感じた本は司馬遼太郎の「燃えよ剣」という本です。この本の主人公である土方歳三が幕末の京都で有名な新撰組の副長であることは知っていましたが、実は私の住んでいた東京の多摩地域出身であることや、東京の農民からどのようにして幕府の武士となったのか興味を持ち読み始めました。この本は上下巻構成で、上巻には私の地元の土地の名前が出てきており、部活の無い休日に本に書かれた土地を散策して当時の状況に想像をめぐらせていました。当然現在の東京に当時の面影はなく、分倍河原という河原は完全に埋め立てられ川があった形跡もないし、調布

という当時の宿場はデパートや大学が並んだ大きな町になっていました。しかし、わずか100年と少しの間に変貌を遂げた街から当時の風景を想像することや、本に書かれている場所で起きたことに思いを寄せることでより作品に没頭していきました。

私にとって読書というのは、想像をめぐらせる道具であり、会うことの出来ない人と出会えるふしぎな道具だと思います。そして、自分に身近な環境について書かれた本は、読み手にいっそうの興味を与えてくれると思います。みなさんも自分に近い題材の本から親近感をもって本を読むことや、人生の先輩として本から何かを学んでみるのも面白いかもしれません。



## 「私のすすめる図書について」

建築学科 北農 幸生

「チーズはどこへ消えた?」

迷路の中に住む2匹のネズミと2人の小人。大好きなチーズもあって、幸せに暮らしていました。ところがある日、大切なチーズが消えてしまったのです。さて、ネズミと小人は……。数年前にベストセラーになった『チーズはどこへ消えた?』のお話です。話の内容としては、チーズがどこへ消えたのかを解き明かしていく…というものではなく、大切なチーズが消えてしまったとき、どういった行動をとるべきかという教訓を、物語を用いて表現したものです。

チーズとは、自分にとって大切なもの。友人とか、恋人とか、仕事とか。それだけではなく健康から生活環境にいたるまであらゆるものの象徴と受け取ることができます。野球部員であれば甲子園出場という目標、就職活動中の学生であれば第一志望の会社への内定、といったものもチーズにあたるかもしれません。それがある日突然消えてしまうのです。すっかり落ち込んでしまう人もいるでしょう。でも、「チーズはどこへ消えたか」「なぜ消えたか」などと考えすぎるな。そうではなく、新しいチーズを探そう。「変化」はそんなに怖いものではない。と、本書は言いたいようです。

ビジネス書としては最もページ数が少ない部類であり、読書に慣れていない人にとっても、読みやすい内容になっています。前に進めず立ち止まっている人は是非読んでみてください。また、一度読んだ人でも、人生その時その時で大切なものは変わるのでしょうから、

時間を置いて何度か読んでみるのもいいでしょう。少し心を落ち着けて冷静に自分自身を見つめられる機会をこの本から得ることができると思います。

私はこの本と出合うことで、変化を前向きに捉えるという新しい考え方(新しいチーズ)を得ることができました。と同時に、例え環境が同じでも、自分自身の考え方が変われば、自らの手で問題は解決していけるということ学びました。

学生の中には、高専生活に嫌気が差している人も少なくないでしょう。この本を読んで今すぐ自分の環境を変えたくなる人もいるかもしれません。でもその前にもう一度、自分のチーズが何かを見極め、この環境で今自分に何ができるかを考えてみてください。私の好きな Mr.Children のひびきという曲に、次の様な歌詞があります。「見つからなかった探し物はポケットに入っていました。」「幸せなんかそこら中いっぱい落ちてるから欲張らずに拾っていこう」

案外、身近なところにもまだまだ美味しいチーズはたくさん転がっているものです。



## 「東山魁夷『日本の美を求めて』」

建築学科 小椋 弘佳

学生のみなさんに推薦する図書を挙げて、それについて短い文章を本誌に寄せるというお話を頂いたので、何かよい本はないかと思案していました。最初はみなさんにとってタメになる本は何だろうと考えていたのですが、考えるうちにみなさん一人ひとりにとって好きだと思える本に出会ってほしいなという気持ちになってきました。そこで、今回はおすすめする本というよりは私が初めて手にしたときから何度も読み返している本について書かせていただきます。その本は、大学生の頃、美術館の文庫コーナーで偶然出会った、東山魁夷の『日本の美を求めて』(講談社学術文庫、1976)です。

著者の東山魁夷(1908-1999)は、「画面の中央を一本の道が通り、両側にくさむらがあるだけの、全く単純な構図で、どこにでもある風景」1)を描いた「道」や連作「白い馬の見える風景」などの代表作で知られる日本画壇の第一人者です。また、東宮御所や唐招提寺御影堂の障壁画を担当したことで有名です。さらに、生誕100年であった2008年には、メディアにも多く取り上げられたほか、連作「白い馬の見える風景」の一枚である「緑響く」が液晶テレビのCMにも登場していましたから、みなさん一度は作品を目にしたことがあるのではないのでしょうか。昭和50年頃、彼が唐招提寺御影堂の障壁画を完成させた前後に書いた随想と講演あわせて5篇が『日本の美を求めて』に収録さ

れています。

東山魁夷は「風景」の中で、幼い頃の記憶や画家を志す以前、中学三年生で描いた作品に関するエピソードを通して、自身の心象風景について触れています。

「私が好んで描くのは、人跡未踏といった景観ではなく、人間の息吹きがどこかに感じられる風景が多い。しかし、私の風景の中に人物が出てくることは、まず無いと言ってよい。これの理由のひとつは、私が描くのは人間の心の象徴としての風景であり、風景自体が人間の心を語っているからである。」(「風景」)

この文章を読んだとき、彼の作品「道」が私の頭に浮かびました。なぜなら、静かでやさしくもあり、また確固たる意志を持つ彼の作品のように、この本からも、特別ではないさりげない日本の風景に対する暖かいまなざしが感じられたからです。

『日本の美を求めて』には、東山魁夷の風景に対する思いが、通奏低音として流れています。文章を読んだ上で、作品集や実際に絵画を鑑賞すると、彼の思いをもっと深く感じられます。例えば彼の作品集は数多く出版されています。また、本校の図書館にも、『現代日本画家素描集5：東山魁夷 - 唐招提寺への寺』(日本放送出版協会、1978)などが収められています。さらに、千葉県の子西市東山魁夷記念館や香川県立東山魁夷せとうち美術館、長野県信濃美術館などに彼の作品が収蔵されていますので、旅行などで近くに行かれる際に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

1) 東山魁夷自身が、「風景」の中で、「道」についてこのように語っている。



## 「わたしのすすめる図書」

一般科目(国語) 松崎 安子

わたしはしばしば「本を好きになるにはどうしたらいいですか。」と尋ねられます。この場合の「本」とは、どういう種類の本なのでしょう。実用的な書籍や専門書なら好き・嫌いとは言ってられないはずですが。すると、冒頭のような質問は一般書籍についておっしゃっているのでしょうか。そのような方へは、いわゆる「ジャケ買い」を試してみることをお勧めします。

意識的に本を好きになろうと思う人には、あえて周囲の人が勧める本は避け、自分のめがねに合う本を自身で探索し、自分の懐からお金を出して書籍を手に入れることを勧めます。

まずはある程度の書籍が並ぶ書店に行きます。そこにはきっとデザインを凝らした表紙があふれています。その中から各自の美的センスに合う本を手にとってみます。その本が自分の興味ある分野をテーマとし

## 新任教員のお薦めの本

ていばなおよしです。そこであわてず、中の文章を見、1ページくらい立ち読みをします。そして、自分にとって読みやすい文・文章であればいよいよその本を買ってみます。そうやって自分の足で探索し、懐を痛め手に入れた本には少なからぬ愛着が湧きます。それが、「本を好きになる」一歩だと信じています。

さて、「わたしがすすめる図書」は、私なりに情熱を持って探した本です。

私がお薦めするのは、黒井千次の小説『春の道標』(1981年新潮社)です。この作品に出会ったのは、二年前、高校で非常勤講師をしていた時でした。現代文の課題演習の問題集として使用していたテキストの中に、作品の一部が抜粋されていました。それはわずかな分量の文章でありましたが、主人公が体験する恋愛模様にある清ら

かさやせつなさを感じたのでした。全編を通して読んでみたいと思い、書店に何度も足を運んだのですが見つかることができず、挙句 web 上で検索してみました。その結果、本書はすでに絶版となっていることを知ったため、中古書を購入することにしたのでした。そうまでして手に入れたこの作品は、期待を裏切らない良書でした。

小説の背景となっている時代とは隔たりがあるものの、青春時代の恋愛にまつわる心のありようは決して古くはありません。現代の恋愛小説にみられるような心情描写の「手抜き」や、甘やかな言葉の羅列で押し切っていくのではなく、あくまで清潔でそしてかなりの苦さがある作品です。みなさんの好みに合うかどうかはわかりませんが、よかったら手に取ってみてください。

## 学生図書委員のページ

### 挨拶

#### 1冊どうぞ

図書館委員長 4D 小松 紀由

小説と言うと、本では200ページほどのものになるでしょうか。多い、少ない、いろいろあると思いますが、この200ページには非日常、人間模様、あなたの知らない世界があります。そして、これらは文字と著者の発想によって複雑に組み合わさり、成り立っています。面白いと思いませんか。この200ページにこれだけのものが詰まっているのです。これを読んでなにか少しでも感じていただけたのなら、1冊でもいいので試しに読んでみて下さい。そして「活字中毒者」になりませんか。

図書副委員長 4M 浦富 雅宏

字、文章。それは時に、芸術の如く我々を魅了するが、時として何よりも恐ろしい刃となって我々に牙をむく。『ペンは剣よりも強し』。新聞や雑誌や、テレビの字幕は、その気になれば何の罪も無い人間を凶悪事件の真犯人に仕立て上げる事など容易い。字を読み、文章を読み、そこに疑問を抱く事さえ出来なければ、簡単に騙されてしまうだろう。そうして、一人、また一人、罪無き人が文章という凶器に殺されていくのだ。次は、あなたかもしれない。そうならないために、本を読むのだ。文章に、表現の仕方に少しでも触れ、知識を増やし、文章が持つ危険に対し理解を深めておくのだ。

### 図書委員お薦めの本

#### もしも高校野球の女子マネージャーが ドラッカーの『マネジメント』を読んだら

五年 機械工学科 松田 達也

「あなたはどんな野球をしてもらいたいですか？」  
病気で倒れた親友に代わり、夏の甲子園大会予選で敗退したばかりの野球部のマネージャーとなった川島みなみ。そこで初めて訪れた野球グラウンドの光景に、みなみは唖然とした。そこには、練習する人がいないのだ。マネージャーとして焦りを感じたみなみは、ふとしたことでその後の彼女に強い味方となる“ドラッカー”の経営書『マネジメント』に出会い、野球部を変える答えを見出す。みなみは、“ドラッカー”を片手に、「野球部を甲子園に連れて行く」という目標に向け、野球部のマネジメントに動き出す。  
本作は、ビジネス本として、amazon のブックランキング1位となっている謎のヒット作です。経営学の父とも称されるドラッカーの『マネジメント』は難しく、少し手を出しにくいかもしれませんが、ライトノベルのような表紙をもつ本作は、経営学のイントロダクションとして参考になると感じます。



# 学生図書委員のページ

## ブックハンティング

5月某日、学生図書委員が今井書店「本の学校」様でブックハンティングを行い、93冊を購入しました。要望を頂いていた本や、図書委員の興味のある本、図書館においてほしい本を選びました。今回購入した本は、下に紹介するような話題のライトノベルから専門書まで幅広いラ

インナップを取り揃えました。これらの本は、図書館の入り口の棚に置いてありますので、まだ読んだことが無い本や、興味がある本があれば、是非図書館で借りてみて下さい。今後も、要望がありましたら図書館のカウンターに備えてあるリクエスト用紙に、書名、著者、出版社を記入して備え付けの箱に入れてください。購入又は他の図書館からの借り入れで要望に応じます。

### ブックハンティングの購入図書一覧(一部)

書名	著者等	出版社等
16歳の教科書「勉強」と「仕事」はどこでつながるのか	モーニング編集部ほか	講談社
しぐさで見抜く相手のホンネ	匠英一監修	扶桑社
数値流体工学	荒川忠一	東京大学出版
金属疲労の基礎と疲労強度設計への応用	中村宏ほか	コロナ社
図でよくわかる機械材料学	渡辺義見ほか	コロナ社
画像処理工学	末松良一ほか	コロナ社
使いこなす放電加工	今井祥人ほか	技術評論社
強く使える筋肉をつくるトレーニング法 120	谷本道哉	ベースボール
WBC 戦記：日本野球、連覇への軌跡	スポーツ・グラフィックナンバー	文藝春秋
日本人の知らない日本語：なるほど？×爆笑！の日本語"再発見"コミックエッセイ 1	蛇蔵ほか	メディアファクトリー
答えられそうで答えられない語源：知っているようで知らない日本語クイズ	出口宗和	二見書房
魔法飛行	加納朋子	東京創元社
流れ星が消えないうちに	橋本紡	新潮社
さまよう刃	東野圭吾	角川書店
虹を操る少年	東野圭吾	講談社
寝台急行「銀河」殺人事件	西村京太郎	文芸春秋
ガラスの巨塔	今井彰	幻冬舎
99のなみだ：涙がこころを癒す短編小説集	リンダブックス編集部	泰文堂
RAILWAYS：49歳で電車の運転士になった男の物語	小林弘利	小学館
甘栗と金貨とエルム	太田忠司	角川書店
ぼくのキャンオン	池上永一	角川書店
長い腕	川崎草志	角川書店
ガラスの麒麟	加納朋子	講談社
さよならドビュッシー	中山七里	宝島社
フリーター、家を買う。	有川浩	幻冬舎
不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	角川書店
ロスト・シンボル 上・下	ダン・ブラウン	角川書店
モルグ街の殺人；黄金虫	エドガー・アラン・ポー	新潮社
自閉症だったわたしへ	ドナ・ウィリアムズ	新潮社

### 学生図書委員一覧

委員長 4D小松紀由 副委員長 4M浦富雅宏

年生	M	E	D	C	A
1	村岡 健太(セ)	寺本 誠司(と)	別所 希輝(と)	浅井 瑠美(と)	藤本 悠介(セ)
2	切明 弘大(本)	森脇麻悠子(本)	竹内 嵩裕(セ)	渡部 浩平(本)	絹見健太郎(セ)
3	三嶋 啓太(セ)	森本 大志(書)	山本 太一(書)	菅田 真子(書)	藪内 俊介(セ)
4	浦富 雅宏(本)	清郷 朋之(書)	小松 紀由(と)	福田 涼(セ)	長谷川 輝(セ)
5	松田 達也(セ)	井上 翔太(セ)	秋山 晴彦(セ)	藤沼 輝(本)	村上 翔吾(と)

担当班  
セ=文化セミナー  
と=としよぶらり  
本=本を読む会  
書=書架整理

### 平成21年度学生利用図書ベスト10

順位	貸出回数	書名	著者	順位	貸出回数	書名	著者
1位	29	大学編入試験問題数学/徹底演習/微分積分・線形代数・応用数学	林 義実	6位	15	オペアンプの基礎マスター	堀桂太郎
2位	26	入門クロマトグラフィー	Gritter他著	〃	15	微生物学	井上 明
3位	18	物理化学実験法	後藤廉平	9位	14	大学・高専生のための解法演習微分積分	糸岐宣昭他
4位	17	機器分析入門	日本化学会技術部	〃	14	研究室で役立つ有機実験のナビゲーター	James W. Zubrick
〃	17	電子デバイス工学	藤井忠邦	〃	14	デジタルIC回路のすべて	白土義男
6位	15	電気機械工学	天野寛徳他	〃	14	1Q84 (ichi-kew-hachi-yon) book 1	村上春樹

## 図書館統計

### 1.平成21年度利用状況

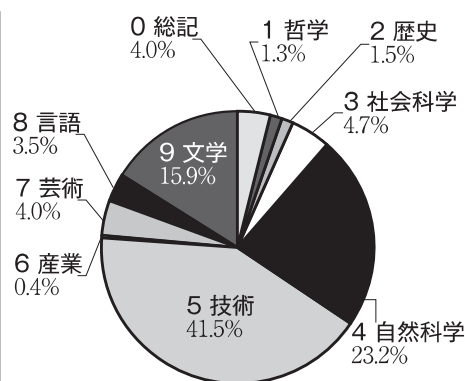
(1)開館日数247日(時間内210日・時間外37日)

区分	学生	職員	校外者	合計
学生・教職員数	1,077人	121人	28人	1,226人
入館者数	46,641人		283人	46,924人
図書貸出者数	4,270人	307人	110人	4,687人
図書貸出冊数	7,937冊	531冊	271冊	8,739冊

### 2.NDC分類別貸出冊数・貸出率

分類	貸出冊数
0 総記	353
1 哲学	112
2 歴史	134
3 社会科学	410
4 自然科学	2,028
5 技術	3,627
6 産業	38
7 芸術	345
8 言語	302
9 文学	1,390
合計	8,739

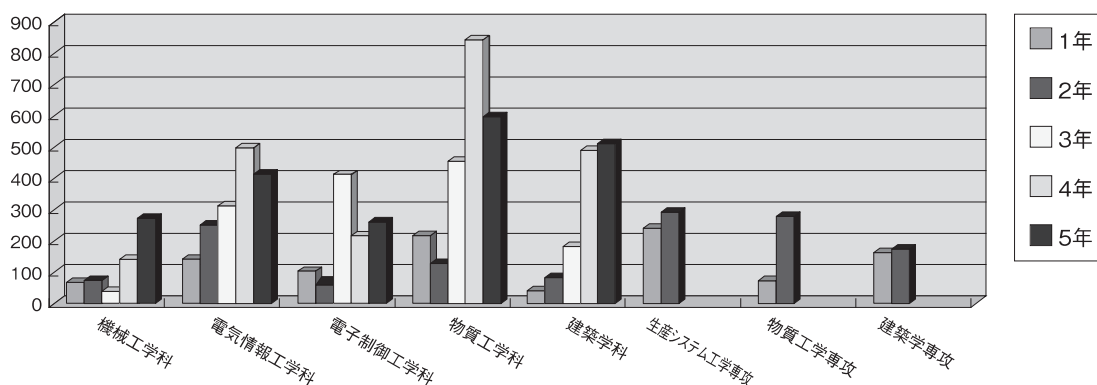
順位	分類	貸出率(%)
1位	5 技術	41.5%
2位	4 自然科学	23.2%
3位	9 文学	15.9%
4位	3 社会科学	4.7%
5位	0 総記	4.0%
6位	7 芸術	4.0%
7位	8 言語	3.5%
8位	2 歴史	1.5%
9位	1 哲学	1.3%
10位	6 産業	0.4%
合計		100.0%



### 3.平成21年度 学年・学科別貸出冊数

本科・専攻科

学科等 学年	本科					専攻科			合計
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	生産システム工学専攻	物質工学専攻	建築学専攻	
1年	65	138	97	215	40	238	70	161	1,024
2年	71	247	69	126	81	287	276	170	1,327
3年	36	310	407	452	179				1,384
4年	136	494	214	840	488				2,172
5年	268	408	258	592	504				2,030
合計	576	1,597	1,045	2,225	1,292	525	346	331	7,937



平成22年度(37回)

## 校内読書・エッセイコンクール応募要項

米子高専の学生であれば「読書感想文の部」「エッセイの部」のいずれにも応募できます。  
読書感想文、エッセイとも以下にある項目以外に自由なタイトルで書いてかまいません。

### ☆読書感想文の部☆

#### 推薦図書

- |   |                                       |
|---|---------------------------------------|
| ・森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』角川文庫                     | ・伊坂幸太郎『死神の精度』文春文庫                     |
| ・有川浩『フリーター、家を買う』幻冬舎                       | ・ピーター・ディッキンソン『エヴァが目ざめるとき』徳間書店         |
| ・小暮真久『「20円」で世界をつなぐ仕事』<br>日本能率協会マネジメントセンター | ・豊島ミホ『リテイク・シックステーション』幻冬舎              |
| ・西原理恵子『この世でいちばん大事な「カネ」の話』理論社              | ・今江祥智『ヒコーキざむらい』フェリシモ出版                |
| ・酒井順子『女子と鉄道』光文社文庫                         | ・杉山春『ネグレクト』小学館                        |
| ・沖方丁『天地明察』角川書店                            | ・坂本光司『ちっちゃいけど、世界一誇りにしたい会社』<br>ダイヤモンド社 |
| ・夏川草介『神様のカルテ』小学館                          | ・小川糸『食道かたつむり』ポプラ社                     |

### ☆エッセイの部☆

以下の項目から一つ、日頃自分が考えていることを自由な気持ちで書いてみて下さい。

- ・今打ち込んでいるもの
- ・エコを考える
- ・やっておけばよかったと思うこと
- ・コンピュータ社会の功罪
- ・スポーツの持つ力
- ・生きていくと実感するとき
- ・10年後、20年後のわたし
- ・音楽とわたし
- ・わたしにとってのものづくり
- ・いま若者として訴えたいこと
- ・いつまでも大切にしたいもの

**実施期間：**夏休み

**字 数：**両部門とも縦書き原稿用紙(400字詰)5枚以内。自筆

**締 切：**10月1日(金)

**提出先：**各クラス図書委員が集めて担任へ(専攻科生は直接図書館まで)

**審 査：**第1次～10月8日(金):クラス担任が部門ごとに3編以内を選定

第2次～10月19日(火)図書館情報センターにて審査

第3次～10月28日(木)図書館情報センター運営委員会において最優秀・優秀作品を決定

**審査委員：**図書館情報センター長、副センター長、センター長補、図書館情報センター運営委員、  
国語科教員

**表 彰：**部門ごとに、最優秀賞1編、優秀賞2編、佳作数編

賞状および副賞として図書券:最優秀賞5,000円、優秀賞3,000円、佳作1,500円

**表彰式：**11月中

**作品提示：**優秀作品は『としょぶらり』誌(90号)に掲載

## 米子高専文化セミナーのお知らせ

～とっとり県民カレッジ連携講座・(財)米子市教育文化事業団連携講座～

平成22年10月23日(土)10:00～12:00

「不思議な現象、カオスって何?」

電気情報工学科 松岡祐介

平成22年11月27日(土)10:00～12:00

「中山間地域(過疎地域)の交通を考える」

一般科目(社会) 加藤博和

場所/米子市公会堂2階集会室 対象/一般 定員/40人 参加料:無料

問合せ先/米子高専図書館情報センター(電話0859-24-5028) 米子公会堂(電話0859-22-3236)

主催:米子工業高等専門学校図書館情報センター 共催:財団法人米子市教育文化事業団 協賛:財団法人鳥取県産業振興機構